

会 議 名	第2回みんなでまちをよくする「ミナヨク」事業支援業務委託事業候補者 選考委員会
開 催 日 時	平成31年3月5日(火) 午後2時～午後3時
開 催 場 所	港区麻布地区総合支所3階第2会議室
委 員 員	出席者 4名 有賀委員長、鈴木副委員長、吉田委員、橋本委員 欠席者 1名 上村委員
事 務 局	港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当
会 議 次 第	1 開会 2 第1回選考委員会議事録概要について 3 第一次選考結果について 4 第二次選考について 5 閉会
配 付 資 料	(席上配布) 資料1 第1回みんなでまちをよくする「ミナヨク」事業運営支援業務委託 事業候補者選考委員会 会議録要旨 資料2 一次審査集計結果 資料2-2 類似業務の判断基準について (案) 資料2-3 事務局採点の内容について (案) 資料2-4 採点基準表(第一次審査)における講評等付帯意見について 資料3 第3回事業候補者選考委員会進行スケジュール (案) 資料4 採点基準表(第二次審査) (案) 参考資料1 事業候補者選考方針 参考資料2 仕様書 (案)

会議の結果及び主要な発言	
(発言者)	1 開会 (事務局より配布資料の確認)
A委員	上村委員が欠席ですが、過半数以上の為、この会を有効とします。
A委員	2 第1回選考委員会議事録概要について (事務局より説明)
A委員 一同	意見が無ければ確定としますが、よろしいですか。
A委員	特になし
	では議事録を確定とします。
A委員	3 第一次選考結果について (事務局より事務局採点部分について説明)
B委員	質問等ありませんので、事務局採点の審査項目については確定します。 それでは採点にあたり、評価したポイント等、講評をお願いします。
C委員	A事業者とB事業者とを対比しながら点数をつけました。(1) 予定事業者の配置研修体制については、B事業者の方が優れていると思いました。(2)(3)(4)と進むにつれて、特に(3)(4)についてはあまり点差の開きがないという印象を受けました。
D委員	緊急時・繁忙時の対応に安心できるという点でB事業者に若干高い点数を付けました。両者とも地域特性に触れておらず、また、実際に働かされている職員に対する研修体制の具体的な記載がありませんでした。A事業者のオンラインコミュニティ塾の取り組みについては、子育ての世代が家にいながらも参加しやすいと思いました。全体の得点からいくと、B事業者の方が若干ですが高くなっています。
事務局	私は僅差でB事業者のほうが優位だと思えます。B事業者は24時間受付体制をとっていますが、A事業者は緊急時の対応について記載がなく、繁忙期にしかバックアップ体制をとらない点で不安が残りました。しかしA事業者は、実証実験について具体的な提案があり、ICTを通じたコミュニケーションのフォローアップは非常に優位性があると感じました。一方でB事業者は、実証実験の具体性が若干弱いと感じました。ヒルズマルシェでの取組は、これまでの区取組よりも若干後退している印象がありました。また、町会・自治会等の交流についてもやや弱い部分が見られたので、その項目については点数を低くしています。
A委員	欠席された委員の講評を代読します。「A事業者には提案に具体性が見られない。PIAZZAの活用は良いが、どの程度効果があるか疑問である。一時保育を実施するという点では評価できる。B事業者は組織体制がしっかりしており、社内認定制度も人材育成には効果が見込める。事業に具体性が見られる。受講生同士の交流にも具体性がある。」と評価されています。
	私は僅差ですがA事業者を高く評価しています。A事業所はバックアップ体制を記載していますが、B事業者は緊急時・繁忙時対応の記載がないように思いま

	<p>す。また、両者とも研修について具体的でなく、業務に対する基本姿勢では、麻布の地区特性を問うという意図が伝わりませんし、地域コミュニティについても麻布について言及がないと思います。こちら側の意図が伝わっていないような気がします。企画提案については、B事業者はフィールドワークについてかなり具体的なことを言っていますが、参加した人の中で論じている感が強いです。また、麻布地区でやるという意識がないように見え、その後の事業展開についても、修了生の中だけでというイメージが少し強いと感じました。A事業者は、テーマが今日的で面白いと思いますし、町会、自治会、商店街など外向きを意識した提案が特徴的だと思いました。以上です。それでは各委員からの講評をうけて、意見交換をしたいと思います。</p> <p>(事務局より、意見交換について説明)</p>
D委員	B事業者の繁忙期対応についてですが、評価すべき点があると考えています。
A委員	私は(1)①でA事業者に8点をつけましたが、今の指摘を受けて、6点に変更します。
C委員	両者とも何を研修しているのか具体的に書いておらず、実績も他社への研修のような書き方で、自社で行っているのか疑問でしたので、研修のところについては4点と低く採点しました。
D委員	私は実証実験の具体性と地域交流の創出という部分で、B事業者に低い点数をつけました。先ほど総評でも触れましたが、ミナヨク事業を実施していく中で、課題を踏まえた次のステップという提案に至っていませんでした。また、できることを並べているような感があり、提案書自体の脈絡も読み込めず、具体的なイメージができませんでした。町会、自治会交流の創出についても記載がないに等しいと感じました。
C委員	B事業者につけた研修体制の採点を、6点に変更します。
	(事務局より修正後の採点結果を報告)
A委員	集計の結果、一次審査の順位は、1位がB事業者、2位がA事業者となりました。一次審査の通過事業者ですが、何者選考するかご意見をお願いします。
D委員	点差は約50点で、二次審査で挽回する可能性があるもので、両者選考対象としてよいと思います。
A委員	両者二次選考に進むというご提案がありましたが、よろしいですか。
一同	異議なし。
A委員	それでは両者2次選考に進むということで決定します。
	4 第二次選考について
	(事務局より説明)
A委員	時間配分は、プレゼンテーションは15分きっかりと測定し、質問時間は15分程度とし、質問内容に応じて調整することとします。
	それでは全事業者への共通質問事項等を設けるかどうか、ご意見をお願いします。5人で質問を手分けしますか。それとも気がついた方から質問しますか。
D委員	私は地域活性化系の事業を所管しているので突っ込んだ質問をしますが、携われてない委員もいますので、参考に共通質問項目を用意してはどうかと思います。事務局で共通質問項目として考えられるものがあれば教えてください。
事務局	募集定員を満たさない場合や、逆に超えてしまった場合の対応について。参加

<p>A委員</p>	<p>者と修了生の交流の場の創出とは具体的にどのようなものを想定しているのか。ネットを利用した企画でトラブルが発生した場合の対応や防止策について。また、行政が対応できない土日祝日ではどのような体制をとるのか、といったことが考えられます。</p> <p>今のような質問項目を、各委員が質問できるよう事務局で準備できますか。それ以外のところで聞きたいことがあれば各自聞くという形にします。私は、事業者が総合支所制度をきちんと理解して、何を目指して事業を実施すると考えているかを聞いてみたいと思います。プレゼンの時間や質疑応答の方法、これによろしいですか。</p>
<p>一同</p>	<p>異議なし。</p>
<p>A委員</p>	<p>ありがとうございます。最後に、各委員また事務局から何かございましたらよろしくをお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>採点基準表の項目と、事業者の企画提案書の項目の表現が一致していないという指摘がありました。採点の点数が変わるようなことがないように、表現を事務局の一任いただき修正します。</p>
<p>A委員</p>	<p>文言について、事務局に一任しますがよろしいですか。</p>
<p>一同</p>	<p>異議なし。</p>
<p>A委員</p>	<p>5 閉会 (事務局より連絡事項の説明)</p> <p>これで、第2回みんなでまちをよくする「ミナヨク」事業運営支援業務委託事業候補者選考委員会を終了します。</p>